

企業ニュース 昭和電工

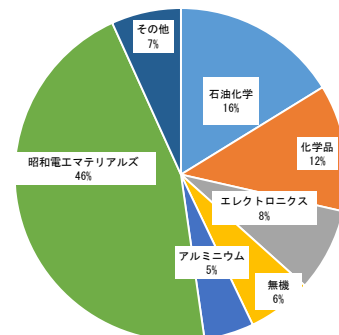
(東証1部: 4004) <https://www.sdk.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

世界トップクラスの機能性化学メーカーを目指す

1939年に日本電気工業と昭和肥料の合併により設立。電気化学工業から無機化学・有機化学・金属材料の分野に事業領域を広げてきた総合化学メーカー。2020年、日立化成(現・昭和電工マテリアルズ)を買収、現有事業とのシナジーを追求する一方、国内のアルミ缶事業譲渡や上場子会社の昭光通商(8090)の株式譲渡を進め、事業構造の再編を行っている。2020年12月には2030年までの長期ビジョンを策定し、世界トップクラスの機能性化学メーカーを目指す方針を示した。2025年における数値目標は売上高1兆6,000億円、EBITDA3,200億円、ROE15%など。個性派(適正な市場規模でグローバルトップシェア)事業の連合体を目指す。現状ではハードディスク、電子材料用高純度ガス、黒鉛電極などの事業が当てはまる。

◇21.12期会社計画売上高構成比



(注) 昭和電工マテリアルズは旧日立化成
5月10日修正計画値
(出所) 昭和電工資料よりCAM作成

新連結、黒鉛電極価格上昇などが業績貢献

21.12期・第1四半期(1-3月)の連結業績は売上高が3,397億円、前年同期比98%増、営業利益が208億円、同743%増。20.12期・第3四半期より連結した昭和電工マテリアルズに加え、石油化学の市況上昇なども寄与、利益面では黒鉛電極で高価原材料の解消が進展したこともあり大幅増収増益となった。昭和電工マテリアルズでは旺盛な需要を背景に半導体関連事業などが好調に推移した。

21.12期連結業績の会社計画は、売上高が1兆3,450億円、前期比38%増、営業利益が680億円、前期194億円の営業赤字から874億円の増益・黒字転換。半導体関連事業の需給タイト化、黒鉛電極の需給改善などを受け、期初計画から売上高で650億円、営業利益で230億円上方修正した。昭光通商の株式売却に伴う連結除外の影響も勘案した一方、下期(7-12月)分は据え置くなど、保守的な修正であろう。下期に向けての不透明感はあるものの、黒鉛電極の価格上昇は下期以降に本格化、半導体関連事業のタイトな需給も当面継続が予想される。

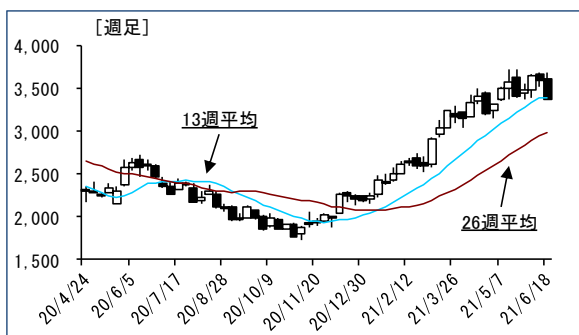
[株価動向・投資判断]

新連結の昭和電工マテリアルズが半導体市場活況に伴い伸長、下期以降の黒鉛電極価格上昇も見込め、21.12期業績のV字回復が期待できよう。

<4004 昭電工 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.12	906,454 (▲9)	120,798 (▲33)	119,293 (▲33)	73,088 (▲34)	501.0	130.00
20.12	973,700 (7)▲	19,449 (—)▲	43,971 (—)▲	76,304 (—)▲	523.1	65.00
21.12 予	1,345,000 (38)	68,000 (—)	64,000 (—)	11,000 (—)	75.4	65.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/6/18)	3,380 円
年初来高値 (高値日)	3,730 円 (21/5/10)
同 安値 (安値日)	2,157 円 (21/1/4)
予想 P E R (21.12 予)	44.8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	2,913.6 円
P B R	1.16 倍
予想配当利回り	1.92 %
(1株当たり配当金 65.00円)	
R O E (20.12)	▲ 16.9 %
発行済み株式数	14,971 万株